

第2回横浜市港北区福祉保健活動拠点指定管理者選定委員会議事録	
日 時	平成27年3月17日(火) 午前10時から午前11時15分まで
場 所	港北公会堂1号会議室
出 席 者	和委員長、小沢委員、鈴木委員、原委員、柳田委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開（傍聴者なし）
議 題	1 面接審査 2 審査・選定
決 定 事 項	次の団体を指定候補者として港北区長に報告する。 社会福祉法人 横浜市港北区社会福祉協議会
議 事	<p>会議の公開・非公開の考え方について、第1回選定委員会で決定したとおり、面接審査及び審査・選定は公開とすることを確認。</p> <p>1 面接審査 申請団体のプレゼンテーション10分、質疑応答を約20分で実施。</p> <p>【団体によるプレゼンテーション】 【質疑応答】</p> <p>(委 員) 事業計画の中で、港北区全体の現在及び今後の課題をどのように捉え、団体の持つネットワークや資源をもってどのように解決するか、具体的に伺います。また、事業計画書に記載のあるネットワークとは、既存の分科会や250もの会員団体を示すか、新たなネットワークを築くか、どちらを示していますか。</p> <p>(団 体) 港北区は他区と比較して人口が増えており、子育て世代も多くなっていますが、地域ごとの格差も大きいと認識しています。高齢化が高い地区や子どもが多い地区など、地区の特性に応じて、必要な地域福祉を推進することが課題と考えています。</p> <p>また、ネットワークについては、既存の分科会などもネットワークとして考えていますが、本団体そのものがネットワークとも考えています。今後は、特にボランティアコーディネートにおいて、人材不足を補っていくには、今まで関係のあるところだけでなく、関連する周辺分野とのネットワークも構築したいと考えています。</p> <p>(委 員) 活動の担い手不足は長年の課題であり、これまでもさまざまな取り組みを行っていると思いますが、結果はどうですか。また、担い手不足が継続している状況や課題を具体的にどのように考えていますか。</p> <p>(団 体) 最近の取組例として、障害のある小学生が通学するときの付き添いがほしいとの相談が多く寄せられましたので、その担い手を育成するために地域の協力を得ながら、ボランティア育成に取り組んできました。また、なぜ担い手が減っているかについては、意識や生活様式の変化もあると考えています。ただ、必ずしも福祉活動をしたいという人が少なくなっているわけではないと考えています。意識調査を見ても何かしら活動に関わってみたいという人がいますが、そのような方</p>

が実際の活動と結びついていないところをさらに分析し、たとえば、趣味や特技から入れば関わりやすい、時間や期間を限定しなければ参加できるというところを工夫しながら取り組みたいと考えています。また、生活の中で少しの収入がほしいという人もいます。今までのような手弁当のボランティアという考え方では対応できないと考えていますので、仕組みもあわせて考えたいと思います。

(委員) 災害が発生した時のボランティアの指揮系統や組織体制はどのようになっていますか。

(団体) 協定では、災害ボランティア連絡会、区役所と本団体がどのように行動するかおおよかな枠組みを示したもので、災害ボランティア連絡会が中心に運営しますが、指揮は連絡会の会長が行います。協定は大枠を示しているだけなので、来年度に向けて三者で肉付け作業を行っているところです。また、本団体では災害時の業務優先順位を定める業務継続計画を策定しているところです。いつまでに、誰が、何を担うかという計画がちょうど出来上がりつつあるところです。本団体を中心となって、協定とあわせて準備を進めています。

(委員) ボランティアセンターでは、地域のボランティアがコーディネートをしているとのことですが、職員でもコーディネートはなかなか厳しいと思います。どのような方法で行っていますか。また、ボランティアの育成・支援では地区の協力を得て行っているとの説明がありました。事業計画書に示されているのは学生だけですが、一般の方向けのボランティア発掘・育成・支援はどのように取り組みますか。

(団体) 現在は、ボランティア連絡会に週3回のボランティアコーナーでのコーディネートを委託しています。残りの週3日は本団体の職員がコーディネートしています。ボランティア連絡会の方とは、毎回業務が終わったあとに必ず打ち合わせを行い、定期的にチーフ会議で情報共有をしているほか、年数回コーディネート研修を受講していただきスキル向上を図っています。ボランティア連絡会の方は実際にボランティア活動をしているので、活動者の視点がコーディネートに活かされていると考えています。また、一般の方のボランティア育成については、たとえば、精神保健のボランティアグループと共催で講座を開催したり、日頃から施設を利用している音訳グループと連携して、専門的ボランティアを育成する講座を開催しています。

(委員) 申請書類では、福祉保健活動拠点の管理運営にかかる人員が常勤1名、非常勤5名となっていますが、このような体制になっているのですか。

(団体) 本団体はさまざまな業務を行っていますので、他の業務との兼務になりますが、申請要項で提示された人件費で計上している人数です。施設利用受付などは職員全員が対応できるようマニュアルを作成しています。

(委員) 財務評価資料で平成25年度の経常増減差額率収支がマイナスになっていますが、どのような理由ですか。

(団体) 23年度から25年度まで経常収支が減少していますが、23年度は年度末に多額の寄附金があり、収益が大きくなりました。24年度は市債の買い替えなどにより収益が下がりました。25年度はパソコンOSの保証切れによる買い換えのため、備品購入費で支出が増えたため収支がマイナスになりました。年々収益が減っていますが、繰越金がありますし、本団体は寄附金と会費が収入源であるの

で、今後も収益は事業などに還元する方針です。

(委員) 担い手不足を解消するためのボランティア発掘や育成については、地域に出向いてボランティアを探し、コーディネートするのは地区担当職員が行い、ボランティアセンターの機能と連携する形でしょうか。

(団体) その通りです。本団体に取り組むいろいろな業務と連携してボランティア発掘・育成を進めたいと考えています。

(委員) 定款に会員に関する規程は、別に定めると記載されているが、会員に関する規程はありますか。

(団体) 会員規程を別に定めています。

2 審査・選定

事務局より財務状況評価及び資格審査結果について報告。

【集計結果】

指定候補者	評価得点／満点（最低基準点）
社会福祉法人 横浜市港北区社会福祉協議会	800点／1,000点(600点)

審査の結果、最低制限基準の総合計点の6割を満たしているため、「社会福祉法人 横浜市港北区社会福祉協議会」を指定候補者に選定することを委員全員一致で決定。

【委員講評】

長年、港北区で福祉保健活動拠点の管理運営や会員団体とのネットワークを通じて、福祉保健団体の活動支援やボランティアの育成に取り組み、港北区全体及び各地区ごとの地域特性や課題も的確に把握している。

利用団体、関係機関及び地域団体などとの連携強化やボランティア育成・支援について、さらなる具体的な事業展開が求められる。当団体の今後の活躍、発展に大きな期待を込めて選定をした。